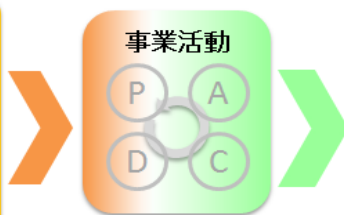
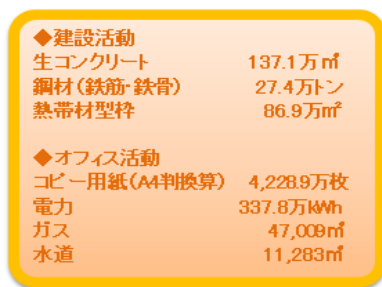


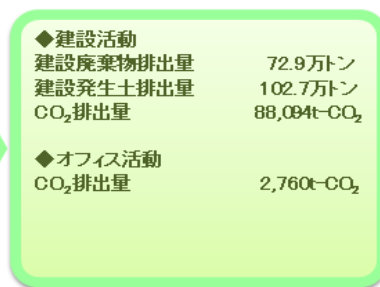
環境データ_1

1. マテリアルフロー

資源投入(インプット)



環境負荷排出(アウトプット)



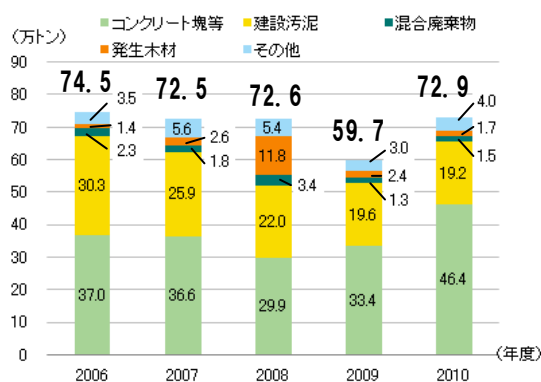
2. 建設廃棄物の削減

循環型社会形成に向けて、建設廃棄物の3R活動を推進し、建設廃棄物の削減と最終処分率の低減に努めています。

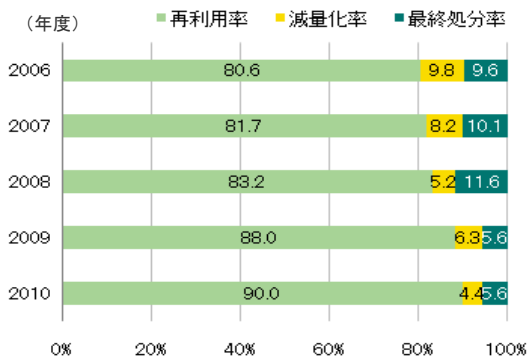
建設工事から発生する産業廃棄物は、新築解体工事でのコンクリート塊や土工事などでの建設汚泥がその大半を占めています。

また、当社では建設廃棄物の最終処分率の逡減に向けて、発生した廃棄物の分別を特に徹底しています。2010年度も前年同様5.6%となり中長期目標を大きく下回りました。今後もこの数値を維持、更新すべく活動を継続していきます。

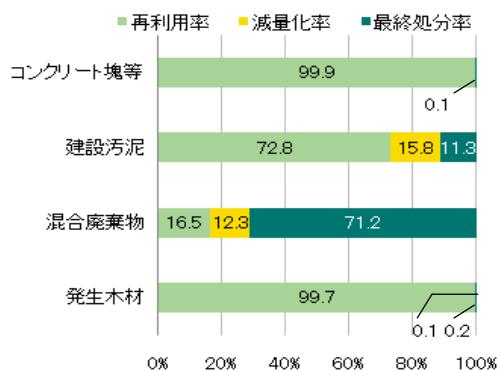
品目別総排出量の推移



最終処分率の推移



品目別最終処分率(2010年度)

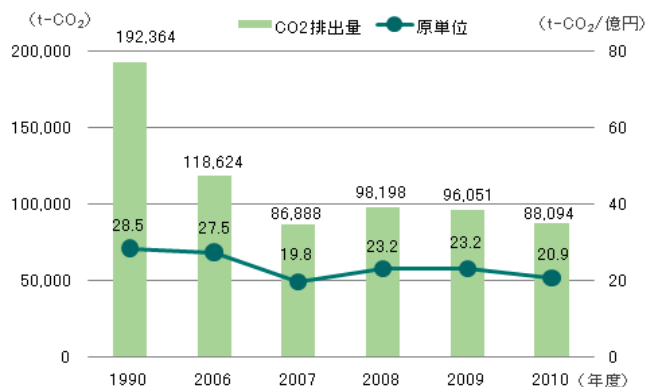


3. 温室効果ガスの発生抑制

当社では、建設工事におけるCO₂排出量原単位を2020年までに1990年比40%削減することを目標に活動を推進しています。2010年度の原単位は20.9t-CO₂/億円、排出量は88,094t-CO₂となり、原単位で1990年比26.6%の削減です。

今後も2020年に向けて活動を継続していくと共に調査精度を向上させるように努めていきます。

CO₂排出量および原単位の推移



環境データ_2

4. 環境会計

◇環境会計の基本事項

☆集計範囲 ☆対象期間 ☆ガイドライン ☆調査方法	戸田建設株式会社 2010年4月1日～2011年3月31日 建設業における環境会計ガイドライン 全数調査とサンプリング調査を併用 作業所関連は105作業所を調査	☆算定方法(環境保全コスト) ・建設廃棄物処分費は全体集計 ・研究開発費は環境割合分析結果から全体推計 ・その他はサンプリング調査結果から全体推計 ☆算定方法(環境保全効果・経済効果) ・資源投入は前年度からの削減量を算定 ・環境負荷排出は前年度からの削減量を算定 ・再資源化等率は前年度からの増加率を算定 ・処理費は前年度からの削減額を算定
------------------------------------	--	---

◇環境保全コスト

事業活動に伴う環境負荷削減のためのコストとその効果を把握するために環境会計を集計しています。

(単位:百万円)

分類	主な活動内容	2009年度	2010年度
(1) 事業エリア内コスト	(小計)	6,261	6,973
1. 公害防止コスト	・作業所における公害防止対策費 (大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・振動防止・地盤沈下等)	1,995	2,409
2. 地球環境保全コスト	・温暖化防止(アイドリングストップ活動費・省エネ機器の採用) ・オゾン層破壊防止(フロン回収・適正処理費)	232	254
3. 資源循環コスト	・建設廃棄物リサイクル処理費 ・建設廃棄物処分費 ・分別ヤード設置費 ・分別回収費用 ・発生土再利用費用	4,034	4,310
(2) 上・下流コスト	・環境配慮設計人件費 ・グリーン調達(差額増分)	285	279
(3) 管理活動コスト	・EMS定期審査費 ・EMS整備運用人件費 ・環境負荷監視の費用 ・作業所周辺美化緑化対策費	1,620	1,607
(4) 研究開発コスト	・環境関連技術の研究開発費	426	401
(5) 社会活動コスト	・地域住民への環境情報の提供 ・環境関連団体への寄付、協賛金	9	9
(6) 環境損傷コスト	・緊急事態への対策費 ・修復基金分担費(マニフェスト伝票代の一部)	69	26
	環境保全コスト総額	8,670	9,295

◇環境保全効果・経済効果

▲マイナス効果

分類	内容	単位	2009年度	2010年度	効果
資源投入	コピー用紙購入量の削減(オフィス業務)	万枚	4,565.1	4,228.9	336.2
	電力使用量の削減(本支店社屋)	万kWh	309.7	337.8	▲28.1
環境負荷排出	CO ₂ 排出量の削減(作業所)	t-CO ₂	96,051	88,069	7,982
	建設廃棄物排出量の削減(作業所)	万トン	59.7	72.9	▲13.2
	建設廃棄物再資源化等率の増加(作業所)	%	5.6	5.6	0
	建設発生土排出量(作業所)	万トン	64.2	102.7	▲38.5
	建設廃棄物処理費の削減(作業所)	百万円	3,646	4,301	▲655